

第2期中期目標の期間における業務実績の評価（案）の概要

1 総括評価

- 機構は第2期中期目標期間（平成26年度～30年度）も、第1期における成果を持続させ、順調に運営している
- 医療面では県立病院としての使命を引き続き担い、特に、総合病院における先端医学棟の開棟を筆頭に、先進的な医療施設・医療機器の整備など、医療の更なる質の向上とそのため体制づくりへの努力が引き続き認められる
- 経営面では施設基準の新規取得及び維持、経費の削減努力等により、3病院全てで第2期中期目標期間中毎年度黒字を達成し、中期目標で示した「5年間累計の経常収支比率100%以上」を達成した
- 今後も引き続き、地方独立行政法人としての現行の経営形態を継続し、県民が安心して暮らせるよう、安全で質の高い医療の提供と、安定した病院経営の維持の両立を期待する
- 一方で、総合病院における先端医学棟の整備に伴う人件費の増加や減価償却費等の増加が経営状況に及ぼす影響を注視していく必要がある
- また、リサーチサポートセンター等を通じた、今後の医療水準の向上、魅力的な環境整備による医師確保への貢献、県民の健康寿命の延伸に資する研究への協力を期待する
- 人口減少や高齢化が急速に進行する中、県立病院として、今後の長期的な医療需要の変化を見据え、地域の医療機関との機能分化及び連携に基づく医療提供体制を構築するとともに、持続可能な経営を確保することが求められる

2 項目別評価

I 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

中期目標	評価内容（要旨）
1 医療の提供	<p>（中期目標の達成状況）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県内医療機関の中核病院として患者との信頼関係構築や地域連携に努め、他の医療機関では対応困難な高度・専門・特殊医療を担い、県立病院としての役割を果たした
	<p>（業務実績に関する評価）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 患者満足度調査を実施し、意見を基に改善策を講じるなど患者サービス向上が図られている ・ 病病連携や病診連携のもと、他の医療機関では対応困難な高度・専門・特殊医療を担っており、県立病院としての役割を果たしている ・ 職員数の増加や施設整備により高度・専門・特殊医療が提供可能な体制強化が図られた ・ 総合病院においては、がん・循環器分野における高度・専門医療や救急医療において高水準の医療を提供した。低侵襲で先進的な循環器疾患医療を提供するためのMR I・CT・血管造影の3種類のハイブリッド手術室やがん治療の適用拡大が進む手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」の整備など、先端医学棟整備を中心とする設備面の拡充と併せて、手術件数の増加に対応できる麻酔科医や看護師の増員、がん相談支援センターへの認定看護師の配置、高度救命救急センターにおける重篤救急患者の受入体制の確保等、人員面での医療提供体制の拡充が図られた ・ こころの医療センターにおいては、精神科救急や急性期医療に重点を置き、県内全域から患者を受け入れ、総合的かつ高水準な精神科医療を提供した。精神科救急ダイヤルの運用、m-ECTやクロザピンといった高度医療の提供、在宅医療支援部門の強化、医療観察法病棟の運用など、県内精神医療の中核病院としての役割を果たしている ・ こども病院は、日本でも有数の小児専門病院として、「こころ」から「からだ」まで総合的な高度・専門・特殊医療や救急・急性期医療を提供した。ハイブリッド手術室や小児用補助人工心臓の導入など小児重症心疾患医療の提供体制を拡充し、総合周産期母子医療センター、小児がん拠点病院、小児救命救急センター、児童精神分野の中核機関としての機能強化を図り、治療の充実や地域医療機関との連携が図られた
	<p>（今後に向けた課題等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症や発達障害への対応、小児慢性特定疾患等における移行期医療など、3病院がそれぞれの特性を生かして相互に連携を図ることが求められる ・ 県立総合病院においては、高度な手術・治療等の増加や外来化学療法センターの院内移転改修により見込まれる利用者数の増加への対応、救急科医師の充足や負担軽減に向けて、必要な医師を確保し、診療体制を充実させ

中期目標	評価内容（要旨）
	<p>ることが求められる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ こころの医療センターにおいては、休床となっている 108 床の一部については、児童・思春期精神医療用病床等の活用を検討しているが、将来の医療需要等を見据え、引き続き今後の活用について検討が必要 ・ こども病院においては、小児がん拠点病院として、診療体制の整備、地域医療機関との連携、移行期医療への対応などさらなる機能強化を図る必要がある。また、発達障害の受診が増加しており、専門とする医師の確保に努めるとともに、県と連携し、地域の医療提供体制の構築に努めることが期待される
2 医療に関する技術者の研修を通じた育成と質の向上	<p>（中期目標の達成状況）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修環境の充実、就労環境の向上、知識や技術の普及を通じて、優秀な人材の確保と質の向上が図られた <p>（業務実績に関する評価）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 総合病院のメディカルスキルアップセンターが先端医学棟に移転整備され、研修環境の充実が図られた ・ 国際学会での発表や海外医療機関との国際交流を通じた医療技術の習得が図られた ・ 積極的な看護師採用活動や柔軟な採用試験を通じて看護師確保を実現した ・ 多様な勤務条件設定や医療事務作業補助職員・看護助手等の採用により医療従事者の負担軽減とワークライフバランス実現に努めた ・ 総合病院のドクターズクラブ、医師宿舎、看護師宿舎の建設、こども病院の医師宿舎改修、院内保育所の建替え実施など就労環境の向上が図られた ・ 国内外の学会・研修会への参加、資格取得助成制度の利用、院内外の医療従事者を対象とした講演会・実習研修を通じて、知識や技術の普及に努めた <p>（今後に向けた課題等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ こども病院のラーニングセンターの一層の活用促進に向けて、院内研修の集約化を推進していくことが求められる ・ 医師の働き方改革に向けて、情報収集や協力体制の構築を進めるとともに、負担軽減に向けた補助職員等の採用、チーム医療の推進等により業務分担を行うなど、就労環境の向上にも留意が必要
3 医療に関する調査及び研究	<p>（中期目標の達成状況）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 総合病院のリサーチサポートセンターの整備等による研究機能の強化、診療等情報の活用、県民への情報提供の充実が図られた <p>（業務実績に関する評価）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 総合病院の先端医学棟内に医療関係者の臨床研究を支援するリサーチサポートセンターが整備され、客員研究員の受入れや県立大学薬学部との共同研究など研究体制の強化が図られた

中期目標	評価内容（要旨）
	<ul style="list-style-type: none"> ・ D P C分析結果の経営分析への活用等、診療情報等の活用が図られている ・ 県民や医療従事者向けの公開講座の実施やホームページのリニューアルによる情報公開、報道機関への情報提供等、県民への情報提供の充実が図られた <p>（今後に向けた課題等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県が推進する社会健康医学の研究においてもリサーチサポートセンターが県民の健康寿命の延伸に資する研究に協力していくことを期待する ・ 今後の医療水準の向上と、魅力的な臨床研究環境をPRすることによる医師確保への貢献が期待される ・ 原価計算の具体的な分析方法について検討が進められており、今後の経営改善への活用が期待される
4 医療に関する地域への支援	<p>（中期目標の達成状況）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医師不足病院への医師派遣等による県医師確保対策への協力、診療情報共有や医療機器の共同利用を通じた地域医療への支援、社会的要請への協力が継続して行われている <p>（業務実績に関する評価）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医師不足が生じている県内の公的医療機関や急病センター等への医師の派遣により、地域医療に対する支援が継続して行われた ・ 先端医学棟の開棟に伴い、医師数が大幅に増員された ・ 地域医療連携ネットワークシステムを活用した医療機関相互の診療情報共有やテレビ会議システムを活用した症例検討会、高額医療機器の地域医療機関との共同利用が進めるなど、地域医療支援に努めた ・ こころの医療センターが医療観察法の鑑定医としての要請に対応したほか、3病院ともに出前講座・研修講師を務めるなど社会的要請に協力した <p>（今後に向けた課題等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域医療を支援する中心的機能を担う立場から、地域の医療機関との役割分担を明確にし、病病連携・病診連携といった相互連携や機能分担を進めていくことを期待 ・ 新専門医制度の運用に当たり、今後、引き続き、県とともに医師確保対策の検討が必要
5 災害等における医療救護	<p>（中期目標の達成状況）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 訓練実施や他医療機関との連携体制構築により医療救護活動の拠点機能強化を図るとともに、災害派遣医療チーム等を通じて他県等の医療救護に協力した <p>（業務実績に関する評価）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 総合病院は基幹災害拠点病院として県の中心的役割を果たすため、災害対応マニュアルの改訂、訓練実施、業務継続計画の策定に取り組んだほか、県の原子力災害拠点病院の指定を受けた

中期目標	評価内容（要旨）
	<ul style="list-style-type: none"> ・ こころの医療センターは他府県の7精神科病院との間で自治体精神科病院の相互支援に関する協定を締結した ・ こども病院は大規模災害時の情報共有・後方支援の充実に向けて小児医療機関34施設と広域災害時相互支援に関する協定を締結した ・ 熊本地震に派遣したDMA T（災害派遣医療チーム）・D P A T（災害派遣精神科医療チーム）が現地医療救護に従事するなど、他県等の医療救護に協力した

II 業務運営の改善及び効率化に関する事項

中期目標	評価内容（要旨）
1 簡素で効率的な組織づくり	<p>（中期目標の達成状況）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 組織運営や契約手法の工夫と継続的な改善の努力により、業務運営の改善・効率化が図られている
2 効率的な業務運営の実現	<p>（業務実績に関する評価）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月の理事会・運営会議を通じた組織内部の情報共有と経営状況の的確な把握、勤務成績評価制度の対象拡大等、簡素で効率的な組織運営が図られている
3 事務部門の専門性の向上	
4 業務改善に不断に取り組む組織風土の醸成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 未収金の回収率改善、適正な在庫管理や共同購入による診療材料費等の低減、委託契約の節減とモニタリング制度導入による質の向上等、効率的な業務運営に努めた ・ 診療情報管理機能の強化、業務改善運動の推進も図られた

III 財務内容の改善に関する事項

中期目標	評価内容（要旨）
第2期中期目標	<p>（中期目標の達成状況）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5年間累計の経常収支比率100%以上を達成
期間を累計した損益計算：経常収支比率100%以上	<p>（業務実績に関する評価）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第2期中期目標期間3病院全てで毎年度黒字を達成 ・ 経常収支比率、医業収支比率、給与費対医療収益比率、材料費対医業収益比率等の経営状況指標は全国類似病院と比較しても高い水準を維持
病院経営に大きく関わる環境変化に対する適切な対応	<p>（今後に向けた課題等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医業収支比率や給与費対医業収支比率等の改善など、財務内容の更なる健全化 ・ 先端医学棟の開棟に伴う、多額の設備投資による減価償却費の増や人件費の増が、経営状況に与える影響を注視する必要 ・ 病院経営への影響の大きい消費税率の増高を見据え、診療材料費等の費用面の見直しについて引き続き留意する必要
中長期的な病院運営の健全化、経営基盤の強化	

IV その他業務運営に関する重要事項

中期目標	評価内容（要旨）
<ul style="list-style-type: none"> 法令等遵守、社会規範の尊重 	（今後に向けた課題等） <ul style="list-style-type: none"> 法令等の遵守に関して、社会的信用を損なう事件が発生したため、今後より一層の法令遵守と適正な対応、県民への情報発信に努めていく必要

<参 考> 第2期中期目標期間の財務内容（機構全体・税込）

（単位：千円、％）

区分	H26	H27	H28	H29	H30	第2期計
経常収益	40,313,388	41,745,271	43,410,002	44,695,224	46,385,024	216,548,909
医業収益	32,650,810	34,039,106	35,727,133	37,017,369	38,579,826	178,014,244
経常費用	39,131,773	40,563,161	42,307,751	43,851,745	45,386,224	211,240,654
医業費用	38,223,204	39,605,537	41,368,872	42,861,993	44,383,394	206,443,000
経常収支	1,181,615	1,182,110	1,102,251	843,479	998,800	5,308,255
医業収支	▲5,572,394	▲5,566,431	▲5,641,739	▲5,844,624	▲5,803,568	▲28,428,756
経常収支比率	103.0%	102.9%	102.6%	101.9%	102.2%	102.5%
医業収支比率	85.4%	85.9%	86.4%	86.4%	86.9%	86.2%
当期純損益	505,730	1,070,742	1,079,582	934,015	737,656	4,327,725

(参考) 第1期中期目標期間評価時の課題に対する
第2期中期目標期間の改善の取組状況

第1期中期目標期間 (H21～H25) 評価時の課題	第2期中期目標期間 (H26～H30) 改善の取組状況
1 医療の提供	
感染対策の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感染対策委員会の実施や研修会の継続的な開催・対策マニュアルの随時見直し
こころの医療センターにおける他の医療機関との連携、紹介・逆紹介の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・ かかりつけ医との連携等により紹介率は上昇 (H25 : 49.6%⇒H30 : 51.0%) ・ 他の医療機関では対応困難な患者を受け入れるため、逆紹介率の期間中の伸びはほぼ横ばい
緩和ケアにおける腫瘍精神分野の常勤医による対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医師をはじめとする多職種連携で結成した緩和ケアチームによる患者への介入
がん相談件数増加のための広報の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ がん相談支援センターで専従看護師による対応等により相談件数増加 (H25 : 2,457件⇒H30 : 4,374件) ・ オープンホスピタルの開催 (H25 : 900人⇒H30 : 1,200人)
高度な救命医療に対応するため、医師・看護師等の増員による更なる機能強化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高度救命救急センターの指定(H27.3) ・ 循環器病センターのCCU・ICUの稼働率向上 (H25 : 96.1%⇒H30 : 119.1%) ・ 先端医学棟にMRI、CT、血管造影のハイブリッド手術室を整備(H29)
2 医療に関する調査及び研究	
臨床研究機能についての強化拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・ リサーチサポートセンター、きこえとことばのセンター整備等による研究機能の強化(H29) ・ 外部客員研究員の受入(H27～)
3 医療に関する技術者の研修	
看護師の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な確保対策による看護師数の増加 (総合 H25 : 646人⇒H30 : 806人)
放射線科、麻酔科等の医師確保	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合病院の先端医学棟の開棟に合わせ、麻酔科医5名を増員ほか(H29)

第1期中期目標期間 (H21～H25) 評価時の課題	第2期中期目標期間 (H26～H30) 改善の取組状況												
4 医療に関する地域への支援													
地域医療の支援への積極的取組	<ul style="list-style-type: none"> PET や MRI, CT といった高額医療機器の共同利用や公的医療機関等への医師派遣、地域医療支援センターでの研修医キャリア相談 												
本県の医師確保対策への積極的な取組	<ul style="list-style-type: none"> リサーチサポートセンターなど魅力ある研究環境の整備を通じた医師確保・定着の促進 医学修学資金貸与者に係る配置調整医師数の増加 (H25 : 6 人⇒H30 : 64 人) 												
精神科救急ダイヤルにおける相談への対応	<ul style="list-style-type: none"> 24 時間体制での相談対応を継続し、相談対応件数は増加 (H25 : 2, 462 件⇒H30 : 2, 718 件) 												
5 災害等における医療救護													
3 病院がそれぞれの分野において機能発揮できるよう体制強化と訓練の実施	<ul style="list-style-type: none"> 先端医学棟 2 階に災害対策本部を整備 全職種を対象にしたトリアージ訓練実施 H28 の熊本地震への「心のケアチーム」派遣 												
6 業務運営の改善及び効率化に関する事項													
医療の質向上のための業務運営の改革・改善	<ul style="list-style-type: none"> 医療機器や診療材料の価格交渉・物品一元管理・共同購入 3 病院一括委託契約・複数年契約等による経費削減努力と委託モニタリング制度による質の向上 												
プロパー職員での経験者採用	<ul style="list-style-type: none"> アソシエイト（有期職員から正規雇用）区分の創設による優秀な人材の確保に向けた取組 												
時間外勤務縮減に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> 事務作業補助者や看護助手の配置による医療従事者の負担軽減を実施 												
7 財務内容の改善に関する事項													
医業収益比率の水準改善 (全国類似病院との比較)	<ul style="list-style-type: none"> 総合・こころでは全国水準と同等の見込みだが、こどもでは重篤な患者が多く、伸びにくい事情があることから低くなる見込み <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>全国類似病院 (H29)</th> <th>病院機構 (期間平均)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般病院 (500 床以上)</td> <td>92.8</td> <td>92.4</td> </tr> <tr> <td>精神科病院</td> <td>66.8</td> <td>68.0</td> </tr> <tr> <td>小児専門病院</td> <td>78.6</td> <td>75.2</td> </tr> </tbody> </table>		全国類似病院 (H29)	病院機構 (期間平均)	一般病院 (500 床以上)	92.8	92.4	精神科病院	66.8	68.0	小児専門病院	78.6	75.2
	全国類似病院 (H29)	病院機構 (期間平均)											
一般病院 (500 床以上)	92.8	92.4											
精神科病院	66.8	68.0											
小児専門病院	78.6	75.2											